

クラス番号	314	担当教員名	堀場 純矢
		他専修学生受入上限人数	0名
テーマ	社会的養護における子ども・家族の背景・支援と職員の働き方		
著書・論文	主著：『児童養護施設職員の労働問題：子ども・職員双方の人権保障のために』（ミネルヴァ書房、2025），『「そだちあい」のための社会的養護』（ミネルヴァ書房 2022），『社会的養育ソーシャルワークの道標』（日本評論社、2021），『〈施設養護か里親制度か〉の対立軸を超えて』（明石書店、2018），『日本の児童養護と養育研半世紀の歩み』（福村出版、2017） 研究課題：児童養護施設の労働問題と労働組合の役割、児童養護施設における小規模化の影響、児童養護施設で暮らす子どもと親の生活問題		
研究課題等			
ゼミナール概要			
キーワード：社会的養護、児童養護施設、貧困・虐待、働き方、人権保障			
目的・内容・方法： ・近年、児童養護施設では、小規模かつ地域分散化が進められています。そこでは、家庭的な環境で子どもたちを個別的に支援することができる一方、ホーム・ユニットごとに職員が分散して勤務することにより、職員の働き方が大きく変化しています。加えて、高機能化・多機能化（里親支援、一時保護など）も進められています。そこで、ゼミではこうした状況を踏まえて、①困難を抱えた子ども・家族の背景と支援、②職員が安心して働き続けるために必要なこと、③子ども・保護者・職員の人権を一体的に保障することの重要性について学んでいきます。 ・施設見学や全国児童養護問題研究会、チャイボラ・オンライン企画（参加費無料）への参加を通して、社会的養護について体験的に理解を深めます。例年、希望者を対象に先駆的な実践をしている全国各地の児童養護施設・乳児院などの見学も行っていますが、来年は全国各地の施設でインタビュー調査を実施予定のため、ゼミ生にも調査補助者（アルバイト）としてかかわってもらう可能性があります。また、次年度（5/29.30）は全国児童養護問題研究会全国大会が名古屋で開催されるため、学生スタッフとして参加していただく予定です（就活になります）。 ・ゼミではこれらの活動を通して、卒業論文を完成させるとともに、将来、児童養護施設・母子生活支援施設・児童心理治療施設・児童家庭支援センターや児童相談所などで働くために必要な知識を身につけることを目的としています。			
授業計画： ・3年生の前期は、学生同士の交流を行った後、社会的養護に関するテーマごとにグループ分けを行い、調べ学習と発表をします。それと並行して、全国児童養護問題研究会全国大会（名古屋）への参加や、グループごとに県内の児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設・児童相談所などを見学します。 ・3年生の後期は、夏休みの報告を行った後、研究誌（全国児童養護問題研究会編『社会的養護研究』（創英社）の予定。ゼミ生には無償で提供）を基に、資料作成・報告・意見交換を行った後、卒業論文に向けての個別発表を行います。このほか、ゼミ生の希望があれば、交流企画や県外の施設見学なども行っています。 ・4年生の前期は、卒業論文の執筆・添削を行うとともに、ゼミ内で報告会を行います。そして、後期に卒論の下書きを提出した後、添削や修正などを経て、卒業論文を完成させます。			
※ゼミを希望する学生は、エントリーをする際、①関心を持っているテーマ、②卒業後に考えている職業（現段階）を記載して下さい。可能であれば、図書館2階にある『社会的養護研究』6号を読んでおいて下さい。			
担当教員からのメッセージ			
	・担当教員は児童養護施設の元職員です。全国児童養護問題研究会の編集部長を務めている関係で、全国各地の児童養護施設の情報を把握しています。また、施設職員の労働問題を研究しているため、就職の相談や卒業後のフォローにも個別に対応しています。 ・将来の収入面が不安な方もいると思いますが、社会的養護では措置制度が維持されているため、賃金・労働条件は公務員や大企業正社員と比較しても遜色がなく、安定しています。 ・このゼミは、①仲間と積極的に議論し、主体的に学ぶ姿勢のある学生、②将来、児童養護施設・母子生活支援施設・児童心理治療施設・児童相談所の職員、家庭裁判所調査官、少年院の法務教官として働きたいと考えている学生（学ぶ意欲があれば、それ以外でも可）、③施設見学や全国児童養護問題研究会全国大会などに積極的に参加したいと考えている学生を歓迎します。メリハリのある、楽しいゼミにしましょう！		